



ゆたか福祉会キャラクター
ゆたかめくとみらいちゃん

障害者の ゆたかな未来をめざして



「ぼくといちごとめろん」 つゆはし作業所 長崎 勇太さん ※紹介が11ページにあります。

CONTENTS

- ▶ 私たちの実践 ~その人らしく生きるための生活リハビリテーション~ P2~3
- ▶ 8.2 国際セミナー P4~5
- ▶ 平和への願い / 暮らしの中に彩りを P6~8

2023年9月10日 毎月1回10日発行 一部100円（法人会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます）

発行 / 社会福祉法人ゆたか福祉会 〒457-0852 名古屋市南区泉楽通四丁目5番地3
TEL 052-698-7356 FAX 052-698-7358 <http://www.yutakahonbu.com/>



愛知県ファミリー・
フレンドリー・マーク

ゆたか福祉会

検索

シリーズ 私たちの実践

その人らしく生きるための生活リハビリテーション

リハビリテーション委員会の活動② 身体と心の元気を取り戻す作業療法

■ゆたか福祉会での作業療法で目指しているもの

作業療法では、障害や加齢に伴う「生活のしづらさ」に対して、福祉用具や生活環境を整えることで、住み慣れた地域・社会に参加していけるように関わっていきます。また、身体機能低下による活動意欲低下や気持ちの落ち込み自信喪失状態から、その人らしい生活を送っていけるように、自信の回復や精神の安定を図っていきます。あわせて、集団作業療法を通して楽しみながら、身体的にも精神的にも安定していけるような関わりを行っています。

■実践報告

① Aさん

環境を整える事で自発的な動きが生まれ、自信回復に繋がった取り組み

ほしぎきホームで生活しているAさんは、2022年の入院後、車椅子

での生活となりました。入院中の筋力低下により移乗時に転倒することが増え、手が震えて自分で食べることが難しくなり、食事量も減ってしまいました。

また、ホーム入口が階段のみで、車椅子での外出が難しいことから、日中ホームで過ごすことも増えてきました。活動量の低下と食事量の減少、気分の落ち込みから更に生活の中で体を動かすことが減り、そのことが筋力低下に繋がる悪循環に陥っていました。

「このままではホームで生活を続けるのが難しいのではないか」という相談を受けて、作業療法士(以下、OT)と理学療法士で訪問しました。Aさんが現状の筋力や体力でも生活しやすく、体を動かす機会を増やすために、以下の調整を行いました。

- ・ベッド周りやシャワーキャリーの高さを車椅子と同じ高さにして、少ない力で移れるようにしました

- ・クッション等で楽に食事姿勢を保てるようにして、食事を食べやすくしました
- ・スプーンにスポンジグリップを付け、弱い力でも握りやすくしました



現在は体を動かす機会が増え、ベッドやトイレへの移乗や食べることが自分で出来るようになり、自信を取り戻

しています。玄関に昇降機が設置されたことで外出しやすくなり、ふれあい共同作業所に週3回通えるようになりました。作業所では生き生きとした姿が見られ、ホームの中だけで生活していた頃よりも笑顔が多くなりました。また、ガイドヘルパーによる余暇支援を再開するなど、意欲的に社会に出て過ごすことが出来ています。

本人の言葉「スプーンが握りやすくなって、ご飯がたくさん食べられるようになって良かった」

② Bさん

新たな仕事の獲得に向けた、ハビリテーションの取り組み

Bさんはなるみ作業所の自主製品班で、軍手の枚数を数えて紐で束ねる作業をしています。Bさんは新しい環境に対して戸惑ってしまうことが多く、持っている力を上手く発揮できていませんでした。Bさんは年齢も若く、多様な活動を獲得できる可能性があり、サービス管理責任者や現場チーフと連携して、『紐結び』にチャレンジすることになりました。

紐結びを始めた当初は「どのよう



に紐を絡ませればよいのか」、また紐を交差して持ち続ける事や通す方向が分からず苦戦していました。そのため、つまづいている工程に適した練習台を作成しました。紐の固定やガイドとなる色テープの使用、数字を付けての説明書の作成を行い、統一した支援ができるようにしました。2022年12月から練習を開始し、今では本番に近い形でリボン結びを行えるようになっていています。

OTが関わる前は、市販品の靴ひもを結び練習台を使用していました。Bさんは諦めずに取り組むことは出来ていましたが、一方で「もう」「できない」などネガティブな言葉も見られていました。現在は「できた！」という言葉や、Bさんから職員に「今日、紐結びの練習をやったよ」と報告してくれるなど、前向きに取り組む姿勢が見られています。

現場職員の言葉

「Bさんの紐結びの練習から思うこと」

支援員とBさんとの関わりも増え、作業の習得のみならず、「コミュニケーションの場にも大いに活用できました。最初は戸惑っていたBさんも、できることが増えて「余裕」という言葉も出てきています。「練習、まだやらないよ」と職員に声を掛けてくれることもあり、不安や緊張した気持ちも乗り越えて、達成感を感じることができているのだと思います。これからもBさんと共に頑張っていけます。

③集団作業療法

楽しみながら身体面の改善・精神面の安定を図るプログラム

作業療法の特徴の一つとして、個別だけでなく集団を利用した活動にも取り組んでいます。集団作業療法は、多くの人と関わりながらレクリエーション等に取り組むことで互いに影響し合い、他人に受け入れられる体験を積み重ねることで、自信の獲得や意欲の向上を目的としています。

なるみ作業所では、2023年7月より『玉入れ』を集団作業療法とし

て行っています。玉入れは床から拾った玉をカゴに向かって投げ入れることで全身の上下運動や、肩や肘の柔軟性を高める身体的な効果が得られます。それに加え、皆で一緒に取り組む、勝敗が分かれる高揚感を感じ、チームに貢献することで自信の獲得にも繋がります。職員に注目されたい思いが強い利用者もありますが、集団で他の利用者と関わることで、職員以外との関係を持つことができ、他人とのコミュニケーションの取り方を覚える機会にもなります。「玉を入れる」「数を数える」「応援する」などひとり一人にスポットがあたり、前向きに参加できるように行っています。

現場職員の言葉

「集団作業療法を

行うようになって思うこと」

チームメンバーと協力すること、「相手に負けない」という負けん気の強さを発揮することなど、普段では見られない姿を見て、ひとり一人の新たな発見をする機会になりました。職員も一緒に玉入れを行うことで「楽しい」という気持ちを共有し、リフレッシュの機会にもつながりました。

まとめ

これからもOTとして、生活や仕事の中で「今のままでは乗り越えられない問題」が生じたときに、環境を整え、その人に合った福祉用具を検討・提供することで、希望を叶える手助けを行っていきたいと思います。また、自分を受け入れてもらう経験を積むことで、精神面の安定や自信の回復につながるような集団作業療法も、今後より意識して実施していきます。

集団と関わる活動が多いOTは、作業環境整備や集団作業療法など、作業所で取り組めることが多くあります。コロナ以前に比べて元気のない利用者がいる、現場の活気を取り戻すために集団作業療法に興味がある現場などあれば、リハビリ委員会までお声かけください。

ゆたか希望の家 西森由里



8.2 国際セミナー開催

日本・ベトナム パートナー団体による 介護人材育成事業の更なる 発展をめざして

2020年から始まったベトナム・フ工科学大学と、ゆたか福祉会を含む愛知の3法人（愛光園、名古屋ライトハウス）の介護人材育成についての提携事業は、コロナ禍の影響を受けながらも3年が経過しました。



調印式

この取り組みで来日したベトナムからの人材は現在8名、既に各法人の事業所で働いています。この秋には3期生の来日の準備も進んでいます。昨年、コロナ禍で中断していたベトナム・フ工での海外研修も再開し、今年も各法人から代表を派遣することになっており、双方方向の人材交流が進んでいます。

このような中で行われた今回のベトナム・フ工関係者を招いての国際セミナーは、この3年間の取り組みの成果をお互いに確認すること、今後の事業の継続と発展について議論することを目的として開催されました。また今回の国際セミナーでは、初めて参加した「コープあいち」も含めた、フ工科学大学との新たな協定書の調印式も行つことが出来ました。

国際セミナーの様子

国際セミナーは8月2日、名古屋国際会議場会場に100名を超える参加者で開催することが出来ました。当日は、フ工科学大学タウン総長の開会あいさつではじまり、当法人鈴木理事長の経過報告、各法人で働いているベトナム人スタッフの職場報告がセミナー前半の企画でした。8

人のベトナム人スタッフフが、それぞれ写真や動画を使い自分たちの職場の様子、利用者や職員との関係づくりなど、生き活きとした報告がされました。参加



仕事の発表をする
ドゥックさん、ゴックさん（希望の家）

者からも「ベトナムの人達が現場で活躍している様子や、日本の生活を楽しんでる様子が伝わり良かった」との感想が届けました。

後半は、フ工科学大学福祉学部フォン学部長の報告、フ工での海外研修のコーディネートを担当していただいている、エンジョイブル・イングリッシュ、リン代表の報告と、それぞれにこの取り組みへの感謝と今後の期待が語られました。報告の最後は提携活動のコーディネートをお願いしている法政大学佐野竜平教授から、「愛知とフ工とのさらなるパートナーシップ構築に向けた可能性と課題」というテーマで話しがありました。

セミナーの最後には各法人の理事長とフ工科学大学のタウン総長が登場され、協定書にサインをし、今後の事業継続・発展について確認を行うことが出来ました。

セミナーに参加して

ゆたか生活支援事業所のみ 木村美紀
日本とベトナムが外交関係樹立50周年を迎えたアニバーサリーに、フ工科学大学と愛知4連携団体との協定書の更新調印式という、歴史的な瞬間に立ち会うことが出来ました。

ベトナム人スタッフによる報告は、異国での文化や言語の違いの苦労を乗り越えられ「仕事が楽しいです」「人々の助けになる事に幸せを感じました」と、エネルギー溢れる報告が続きました。どの報告も共通し、「利用者が生活を楽しむ」姿から、仕事に価値を見出す内容が印象的でした。



セミナー集合写真

日本の介護技術やその制度を学ぶ一方、自国の支援を受けられない障害のある方を思い、帰国後は「ベトナムの社会福祉に貢献したい」「福祉の発展に寄与したい」と介護職の必要性を実感され、より高い専門性を目指したいと向上心に満ちていました。

帰国後のキャリアを生かしたしくみづくりが課題と提起もありましたが、事業を通じてりましたが、事業を通じてソーシャルワークの基本となる社会への働きかけを学ぶ機会となりました。

ゆたか希望の家 蓼田仁恵

技能実習生の方々の報告を聞いて感じたことは、母国や家族と離れ、慣れない日本での生活を送りながら、日本語の勉強と介護の勉強をしている毎日とはとても大変で戸惑いもあったと思います。新しい環境や困難に直面しながらも、前向きに頑張っている姿がとても印象的でした。

施設で働きながら、日本の文化や介護を学び、体験し、家で野菜を育てたりしている技能実習の皆さんの生活はとても輝いていて、希望に満ち溢れているように見えました。

「日本の生活が慣れてきた」という言葉を多く耳にしましたが、その背景には新しい生活に対する楽しみと葛藤、不安、周りの人々への感謝など、様々な気持ちがありました。

技能実習生の頑張り、働いている施設職員の活力にもなり、自分の支援を見直すきっかけを作ってくれたり、支援に対する質の向上に気づかされることも多くありました。

これからも目標に向かって頑張っていたできたと感じました。

歓迎レセプション

国際セミナー終了後は、会場をホテルに移し、ベトナム・フエ関係者の歓迎レセプションを開催しました。この企画の進行役は、昨年ベトナム海外研修に参加した職員と、ベトナム人スタッフ全員が協力して担い、盛り上げてくれました。

レセプションに参加して

ゆたか生活支援事業所なかかわ 水野久美子
アオザイを身にまとい、ベトナムの皆様と4団体の皆様の交流の機会を、お手伝いさせて頂きました。通訳に挑戦をしたベトナム人スタッフに対し、ベトナムから来られた先生たちがスタッフの成長を目に焼き付け、誇らしげなように見えました。

家族や友人と離れた地で頑張るベトナム人スタッフの日々が、少しでも伝わる機会になっていれば幸いです。



司会をする水野さん(右)

ゆたか職員による大道芸



まーぶるで動くフォンさん(左)とトウイさん(右)も元気に参加

ゆたか生活支援事業所あつた 川松亮太

今回、歓迎レセプションの司会という大役をさせて頂いたが、とても貴重な経験となりました。ベトナムの方々やレセプション関係者の方々のフォローにより、大成功で終える事ができました。



司会のドゥックさんと川松さん

この国境を越えた繋がりは、愛知4団体の将来への発展にもなりえると思っています。これからもベトナムの方々との繋がりを大切にして、お互いより良い関係を築いて行けたらいいと思います。

平和への願い

先月号では、アフガニスタンのファルザドさんからのメッセージを紹介しました。今回は各事業所の取り組みを紹介します。

つゆはし作業所 中川区役所平和の作品展

昨年度から中川区役所内、福祉課入り口のスペースで作業所の作品を1か月間、展示させていただく機会をいただいています。

今年度は「平和」をテーマに、昼休みに仲間たちと平和への祈りを込めて、鶴を折り千羽鶴を作りました。また「みんなの笑顔がいちばん!」と素敵な言葉を仲間が考え、ウクライナの国花であるひまわりと共に大きく書き上げました。

ロシアによるウクライナ侵攻に関しては、昨年、募金や勉強会で考える機会があり、仲間たちも色々な想いを抱いています。迫力のある大きなひまわりで表現できているのではないかと思います。

完成した作品を区役所に展示をさせていただきました。作業所が終わってからでは区役所が閉まってしまう「展示物を見に行くことができない」という仲間の声が挙がりました。「それなら見に行きましょ



う!」ということで、作業所の代表として頑張っている役員さんと職員で感染対策をして、見学に行ってきました。

区役所に入るとすぐに自分たちの作った作品がありました。水色の空とひまわりの黄色がとても目立っていて、「良い感じ〜♪」と自分たちで作った作品を満足そうに眺めたり、触ってみたい…。「見に行けてよかった!」と話しながら帰ってきました。

作品を見てくださった方々に、つゆはし作業所のこと、仲間たちの平和への想いが伝わると嬉しいです。

河合みずほ



ゆたか作業所

7.31 ~ 8.1
平和盆踊り in 道德公園

第43回平和盆踊りが4年ぶりに、名南病院をはじめ地域の様々な協力団体と共に開催されました。コロナの影響も考え「販売員のマスク着用」や「食事テーブルは置かない」などの対策も行われました。

実行委員長のあいさつでは、現在のウクライナへの侵攻問題に触れ、「戦争はいけない。平和な世界になるように!」とあらためて訴えがありました。

2日間とも天気に恵まれ、ゆたか作業所もポップコーン販売の模擬店を出店し、開催を待ち望んでいた皆さんで盛り上がりしました。

松永 誠司



ゆたか希望の家

「団子と串」の平和行進に参加

6月4日(日)10時から45分間、緑区鴻仏目交差点付近でスタンディングでの宣伝行動が行われました。

希望の家からは仲間2名と職員が参加しました。参加者からアピールグッズを貸して頂き、通行者に平和について訴えたり、代表者の声に合わせて「平和を守ろう」と何度も伝えることができました。役員で寄せ書きした色紙をお渡しして平和行進を終了しました。

リサイクルみなみ作業所

5月31日に平和学習会を行いました。今回は自治会役員がみんなと学んでいきたい動画を選びました。いろいろと話し



合い、広島に投下された原爆について描いた『ヒバクシャからの手紙「アマンからの手紙」「世界の国々の子供たちへ」～生きる目的は命のバトンタッチ』を視聴することになりました。

学習会では、平和行進に参加経験のある仲間から、「横断幕を持って歩いた」「戦争をなくそう！と歩いたよ」と、その時の様子が伝えられました。また「被爆で亡くなった人も受けた傷も大変だと思って、改めて戦争を無くしていきたいと思っています」「戦争はいかん。お年寄りや子供も亡くなってはいかん。戦争は起こってほしくないけど、ウクライナでは今も戦争が続いている。命を落としてほしくない。」と、たくさんの意見や感想が出されました。

リサイクルみなみの会担当職員 梶村 将史 / 中垣 由香

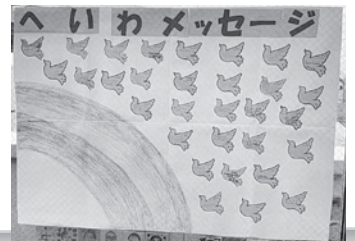
ワークセンターフレンズ星崎

フレンズ星崎では、毎年6月に自治会の取り組みで平和学習を行っています。学習会では戦争の物語「アネモネ戦争」「戦争しない」という絵本を題材にして、あらためて「戦争とはどういうことなんだろう」とみんなで考えました。

物語の中に「間違ったことをしても、相手が怖いから何も言わない。そのうち何も感じなくなってしまうことが戦争である」という言葉がでてきました、仲間たちからは「悪いことは言わないとダメ」「独り占めは良くない」「みんなで仲良くしないといけない」などたくさんの意見が出されました。

学習会の後には、平和への願いをこめて、平和の象徴の鳩型メッセージカードを作り食堂に飾りました。

山田 麻未



暮らしの中に彩りを ~ 4年ぶりに夏祭りが開催 ~

7/18 アロマフラワーボックス作り ◆ ゆたか作業所 ◆



にぎわい作業現場では、アロマセラピスト講師の橋本様の協力を得て「アロマフラワーボックス作り」を行いました。松本様は「障害者施設では初めて」ということで、事前の打ち合わせを何回か行いました。

当日は「香りのお話」のテキストを使いながら、ハーブなど植物の香りや、生活の中にある香り、ペパーミントの香りを確認しました。また、ラベンダーやレモンのアロマオイルを垂らした紙で香り、それぞれ楽しむことができました。

フラワーボックス作りでは一人ずつ、ドライフラワーやきれいな飾りの中から好きな物を小箱に詰め、好きな香りのアロマオイルを選んで香り玉にも付けました。「見て見て！いいでしょ」と仲間同士で見せ合い、出来栄もみんなで楽しみました。

これからもクリスマスツリーやお正月のしめ縄飾りを楽しんでいけたらと思います。 松永 誠司

暮らしの中に彩りを ～ 4年ぶりに夏祭りが開催～

6/22
～7/22

「明治安田生命名古屋南支社」夏祭り

◆ つゆはし作業所 ◆

毎年、「明治安田生命南支社」様からバザーへのお声かけを頂いています。大勢のお客様や営業員の方々を対象にした自主製品の販売です。

特にご担当者の方はたくさんの応援をして下さり、今回は「夏祭りを開く」ということでお誘いを頂きました。お客様を迎えるとすぐに、「障がいのある方々の作った商品です。見ていただだけでも！」と声をかけて下さいます。なかまの仕事や商品を知って頂くきっかけを作って下さる明治安田生命の皆様には、本当に感謝でいっぱいです。

高階 清美 / 深田 郁斗

8/5 諸ノ木自治会盆踊り

◆ ゆたか希望の家 ◆

4年ぶりの開催は共催での参加となりました。自治会の会合に出席し、学童保育等とも協力して準備を行いました。

当日は模擬店、子どもコーナー、自主製品販売を行い、大変な人出で大盛況となりました。利用者みなさんは代表参加で自主製品の販売に参加し、施設の活動をアピールすることができました。

暑い中でしたが事故もなく、地域の方と交流することができ、大変達成感のある取り組みとなりました。

梶村 久美子



8/5～8/6 水袋公園夏祭り

◆ ゆたか通勤寮 ◆



10数年ぶりの水袋公園での夏祭りの開催ということで、利用者の地域交流を目的として参加しました。

2日間の開催の為、通勤寮と事業所みなみで分担し「子ども食堂」として出店をしました。施設としての夏祭りへの参加は、コロナ感染流行前の宝盆踊り以来、久しぶりの機会となりました。

当日はお子さんを中心に、たくさんの地域の方がお祭りに来られていました。利用者の方も不慣れながら、一生懸命接客を行ったり、フランクフルトやコロッケの調理を行い、普段とは違う頑張る姿を見ることができました。参加して良かったと思います。



後藤 麻友香

命を守る

安全運転講習の位置付けを高めて

はじめに

法人全体で昨年度の事故報告は、一昨年度に比べて1.5倍に増えています。また市民の方から「危険な運転をしている」との通報もありました。「命を守る」取り組みとして、安全運転講習の位置付けを高めましょう！

今回はゆたか作業所の取り組みと、安全運転講習に参加した新入職員の学びを紹介します。

ゆたか作業所

安全交通運転講習の実施

ゆたか作業所では、利用者の送迎支援や委託業務の納品等で日々の車両運行も多く、1日延べ10台稼働も珍しくありません。特に利用者の安心・安全という点で、送迎支援は大事な命を預かり運行するため、安全運転講習は職員研修という点で重要な位置を占めています。

安全運転管理者の元で運転業務に携わる職員に対し、運転指導員との個別の運転指導や、それを受けての注意喚起を含めた全体研修がそれにあたります。運転の個別指導では、職員一人ひとりの運転の癖や注意

点等の報告書が個別に出され、指摘もされるため、改めて自分の運転技術を振り返り、考える良い機会となっています。

また全体研修では、最新の交通法規等の学習も行います。また、個別指導で現れた共通の注意ポイントを、日々のドライブレコーダーの映像を使い、振り返りを行います。悪かったところだけでなく、歩行者優先等推奨できる運転の評価も行い、一般論ではなく、日々の自分たちの運転に引き付けた学習を大切にしています。

また、最近では自転車通勤の職員も増えてきているため、ヘルメットの着装や車道走行等動画を活用し、自転車運転の注意喚起や学習にも力を入れているのが特徴と云えます。

全体での学習や講習は年に数回ですが、毎日車両運行はあるだけに、安全運転の構えを絶えず作っていることが求められます。この4月より運行前後にアルコールチェックと体調確認の実施や記録化も始めました。作業所挙げて物損含め事故ゼロをめざし、安心安全の実践を進めています。

安全運転管理者 吉田博

新規採用職員「初任研修」 安全運転講習に参加して

ゆたか生活支援事業所みなみ 富樫結衣

車の運転は好きなので、運転に対する緊張感はありませんでした。しかし、運転が慣れている分、一時停止や左右の確認など運転操作が大雑把になりやすいところを指摘されました。

普段の運転技術を信用するのではなく、誰かを乗せた状態での運転を意識していくことに気付かされました。運転の仕方を見直すとても良い機会でした。

みらいろ 小林稜汰

私は普段から車を運転する方ではありませんが、「安全運転講習」ということで少し緊張しながら参加しました。実技の講習では、細かな足の使い方について運転時の癖をご指摘いただき、気づくことが出来るきっかけとなりました。

座学でも法改正についての話や、改めて適性検査をするなど、とても貴重な機会になりました。今回学んだことを活かし、安全運転に努めていきたいと思っています。





2023年

共同墓地 盆供養祭 開催

8月5日(土)、ゆたか福祉会保護者連合会「共同墓地 盆供養祭」が行われました。

「盆供養祭」は2020年より、新型コロナウイルス感染症予防対策の為、参列者をご遺族と事務局に制限し、少人数で行ってきましたが、今回は4年振りに通常開催としました。

当日は晴天に恵まれ、なごみの塔の墓前及び大蔵寺本堂で読経とともに、理事長はじめ参列者が焼香を行い、故人を偲びました。保護者連合会会長の藤田さんに変わり、初めて参加した矢満田さんの感想を紹介します。

私は保護者連合会の代表として初めて参加しました。とても暑い日でしたが、大蔵寺のご住職の読経が流れる中、「なごみの塔」と碑文が書かれた立派な石碑に手を合わせました。「共同墓地がある」ということで、利用できる人がいること、また供養できる人がいるということはとても大事なことだと思います。これからの運営に悩みながらも、「皆さんの力をお借りし、共同墓地を建設運営して良かったのではないか」という思いになりました。

藤田会長の代理で、午後からの「共同墓地管理委員会」にも参加させて頂きました。また息子をグループホームでみていただくことができて参加できた今回です。感謝しています。

保護者連合会副会長 矢満田 佳代

成年後見もやいは 更なる飛躍を目指します！

「成年後見もやい」は6月3日、市民活動センター集會室において、正会員21団体・個人24名、賛助会員87名の現勢で5年目の総会を迎えました。

名古屋家庭裁判所から成年後見等の受任は81件(内9件終了)。利用者の53%は50歳以上、当然親はプラス30歳程度で親子とも高齢化問題が深刻です。身寄りのない人が亡くなった時の葬儀を推定すると、もやいが葬儀を行うケースは28件程度になります。家庭裁判所に許可を取り、もやいが火葬を行ない、亡くなった後の役所等への手続きをします。

6月1日現在、障害別受任では知的障害が66件(88%)、生活の場所はグループホームが48件(66%)、施設が18件(24%)という状況です。

財政的にも安定し、活動の規模も大きくなり、事務所も新たに4階に設け、事務局職員の増員を目指しています。今年度、名古屋市の指定NPO法人の申請を行います。指定NPO法人となった後は、認定NPO法人の申請を行う予定です。

総会は82%の参加で議案すべてが可決されました。詳しくは、内閣府NPOのホームページに掲載されています。今後ともゆたか福祉会の皆様のご支援よろしくお願ひします。

成年後見もやい理事長 小松 由明

表紙の作者紹介

つゆはし作業所
長崎 勇太さん

「ぼくといちごとめろん」

仕事中の真剣な表情と、ニコッと笑った笑顔が眩しい勇太さん。作業所に通いながら法人外のホームで生活されています。ホームでは大好きなパソコンを使いこなしたり、テレビを観たりして過ごされています。

中でも好きなのはミスタービーンやトトロ！作業所では職員と共にトトロの歌を披露したり、空いた時間はDVDを観たりしています。絵をお願いすると「描きます。描きたい！」と元気よく応えて描いてくださいます。

今回の作品は、優しくて繊細な勇太さんらしさがつまった素敵な似顔絵と、ご自身が好きなメロンとイチゴです。完成した絵を現場のなかまの前で、照れながら見せて下さいました。



7月

日誌

- 10日(月) 事業運営推進会議
- 11日(火) 事務事業推進会議
保護者連合会定例会
- 12日(水) 法人安全衛生委員会
- 18日(火) 広報・ホームページ編集委員会
- 19日(水) 所長会議
- 20日(木) 新所長研修
- 24日(月) 2023正規採用職員「援助担当者会議」
研修部会議
- 26日(水) 副所長会議
- 27日(木) 作業改善ゼミ
- 31日(月) 職員ハンドブック改定委員会
SDGS委員会

(株)毎日リネンサプライ
(福) コスモス福祉会
松本歯科
東洋病院
三和化学産業(株)
株式会社丸菱
近藤産興(株)
桜軽金属工業(株)
壽工業(株)
特定非営利活動法人ひなたぼっこ

大橋利恵子



小島愛子

一般寄附(6月)

順不同敬称略

賛助会員新規加入者・更新者ご芳名一覧

(6月29日～7月10日 手続き分) 順不同敬称略

長田うめ子	及川 博子	堀 武夫
横井 脩	若尾 文子	清水 悦子
尾関 啓子	村井智恵子	渡辺 正春
中武 繁治	池田 栄一	鈴木 隆介
川上 雅也	浅海 正義	原 史江
中園 加奈	高橋香与子	江坂 文恵
藤田 有紀	近藤左千夫	小野 勝幸
鈴木 剛治	満中美由紀	山田 哲也
山崎 勝江	江上 直子	山崎 恭裕
浅田 悦男	渡邊 洋子	
市川 恵子	堀江まる子	

広報・488号

2023年9月号(2023年9月10日発行)

定価1部100円

法人協会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます

発行・編集 / 社会福祉法人ゆたか福祉会

印刷 / 株式会社東海共同印刷

法人協定会費・賛助会費・寄附金など福祉会への申し込み、ご送金は

法人協定会費 = 年間1口6,000円、
賛助会員(個人1口3,000円、企業団体等1口5,000円)

●銀行口座 名義はいずれも社会福祉法人ゆたか福祉会

・三菱UFJ銀行 柴田支店 普通預金 291-884
・中京銀行 鳴海支店 普通預金 150-425

●郵便振替口座 00820-8-54026 社会福祉法人ゆたか福祉会

その人らしく働く暮らす

Vol.112

仲間

「エールとともに地域で暮らして」

ゆたか生活支援事業所みなみ 田中英樹さん



田中さんは、高校在学中に事故により障害を負い、その後は在宅生活が30年近く続いて

いました。そして今から13年前の2010年、ゆたか作業所のデイ現場が初めての福祉サービス利用でした。その後、2015年のエール開設とともに、長く生活した実家を離れて地域生活が始まりました。

田中さんは人と話をするのが大好きです。なかまや職員にいつも大きな声で元気を声をかけ、エールのムードメーカー的な存在となっています。デイサービスに行くことや、ヘルパーを利用して大好きなパンやコーヒーを買いに行くのを楽しみにしています。

自宅での生活からグループホームに入り8年が過ぎました。しっかりと自分の生活リズムを確立して生活をされています。入居当初はお母さんに電話

をする、「おかーさん」と泣いて話をしていたのを思い出します。

今では帰省も難しくなり、年に数回しかご家族に会えませんが、会える時には思い切り甘えて、エールに戻るといつもの通り、明るい元気な笑顔でみんなに話しかけてくれます。

60歳が近づき、健康面にも気を付けなければならぬ年齢になってきました。リハビリ等も積極的にいながら、できるだけ長く元気にエールで生活できることを願っています。

杉本雅明



まわりを明るくする笑顔

職員

「経験が増えるって楽しい」

ゆたか生活支援事業所かさでら 片桐由麻



正規職員として入職し、5年目を迎えました。前職では放課後児童デ

イサービスを経験し、「障害を持つ児童に楽しい経験をたくさんしてもらいたい」「見つけて欲しい」という思いで働きました。我ながら「活発にたくさんのお出を出を児童と作りながら過「こせていたな」と感じています。

前職を退職し、就活を行う中で「やっぱり障害者支援に携わりたい」という思いの中、ゆたか福祉会に出会いました。グループホームで5年、日中の場から生活の場、また児童から大人と変わりましたが、「経験を積み重ねる楽しさを伝える役割」という部分は変わらないと思っています。

ホーム担当の役割を頂き、「仲間の願いにどのような工夫をしたら寄り添えるのか」などを考察し、チームで協力し動き、願いに寄り添えた時には自身の喜びに繋がっています。

す。今は、役割も変わり副所長という立場をいただく事となりました。

まだまだの中でのキャリアアップですが、周りで支えてくださる職員、仲間やご家族などたくさんの方々を守られ、安心しながら働くことが出ています。

そして何より「経験が増えるって楽しい！」と自身の成長を振り返りながらも改めて感じます。私が経験をjを経て楽しめている様に、仲間にも働く職員の方々にも「同じように感じてもらえたら」と、今度は私が伝えていく側を目指していきたい職員に成長していきたいと思っています。



ホームで穏やかに